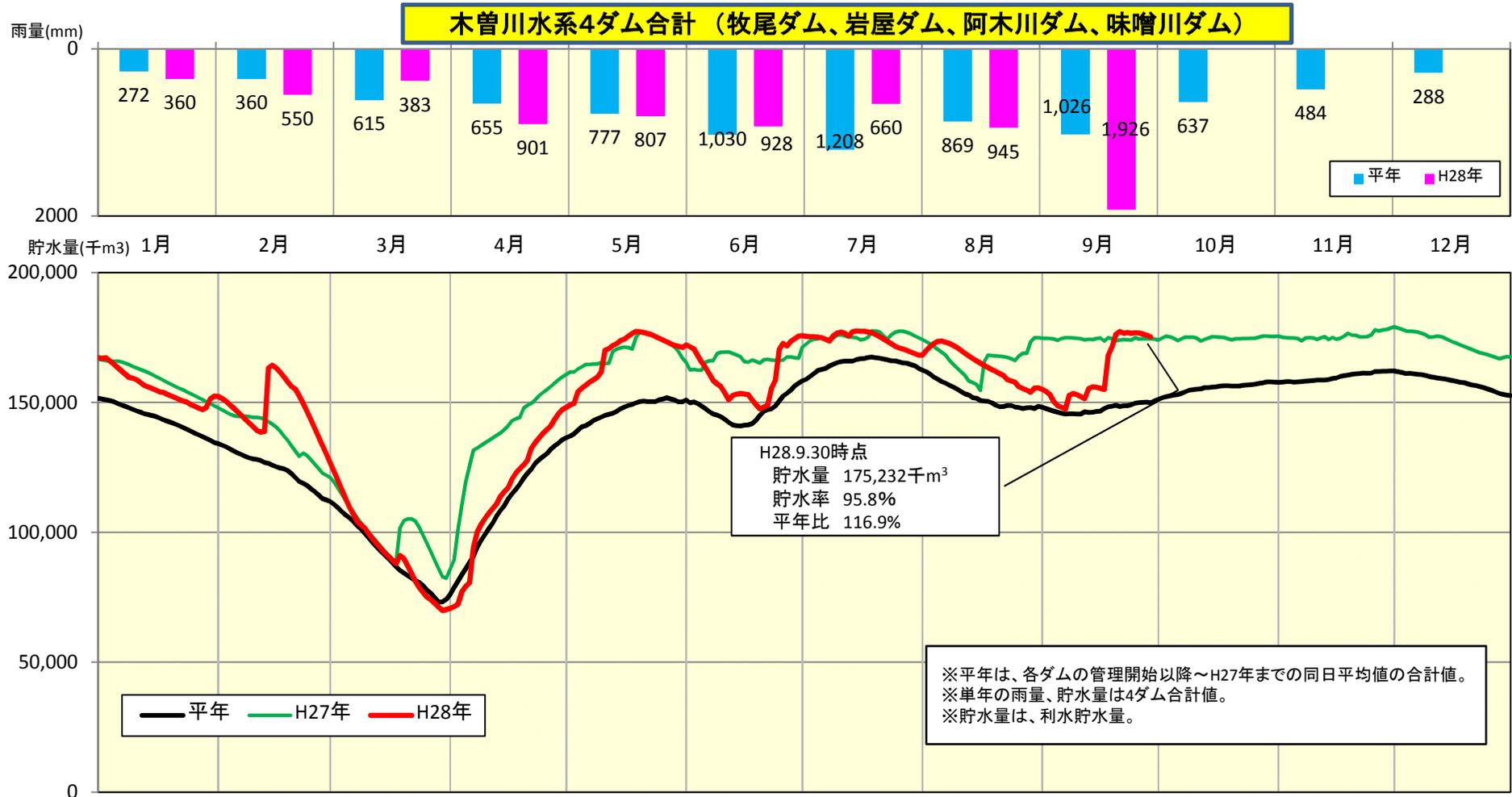


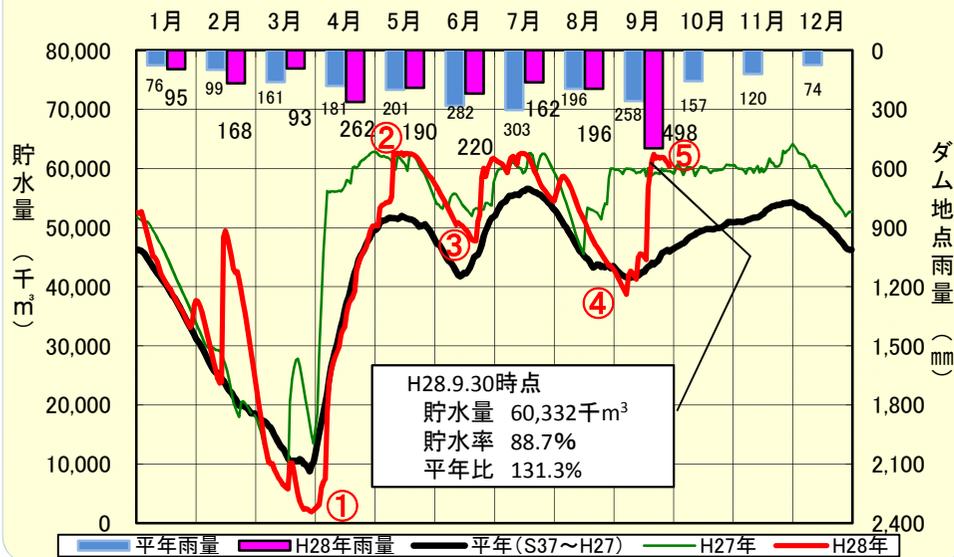
# 木曽川水系の水源状況(H28年9月30日まで)①

- 暖冬による少雪及び3月の少雨が牧尾、岩屋ダムの発電運用による水位低下と重なったことにより、木曽川水系4ダム(牧尾、阿木川、味噌川、岩屋)の合計貯水率は3月末には貯水率38%まで低下しました。
- その後、4、5月の降雨で一旦回復したものの、6月の梅雨入り以降少雨傾向となり、6月20日には4ダム合計貯水率81%(平年比102%)まで低下しました。その後6月下旬のまとまった降雨で満水近くまで回復しました。
- 7月下旬からはまとまった降雨が少なく、水需要の多い時期でもあることから貯水率はやや低下傾向となりましたが、8月に入り、寒気の影響に伴う散発的な降雨による平年並の降雨があり、さらに9月中旬以降は秋雨前線及び台風16号接近に伴って平年を大きく上回る降雨がありました。
- こうした中、木曽川水系4ダム(岩屋ダム、牧尾ダム、阿木川ダム、味噌川ダム)の貯水量は、9月30日時点では牧尾ダムを除き満水まで回復しており、合計貯水量は平年を上回る水準(平年比119%)となっています。



# 木曾川水系の水源状況(H28年9月30日まで)②

## 牧尾ダム

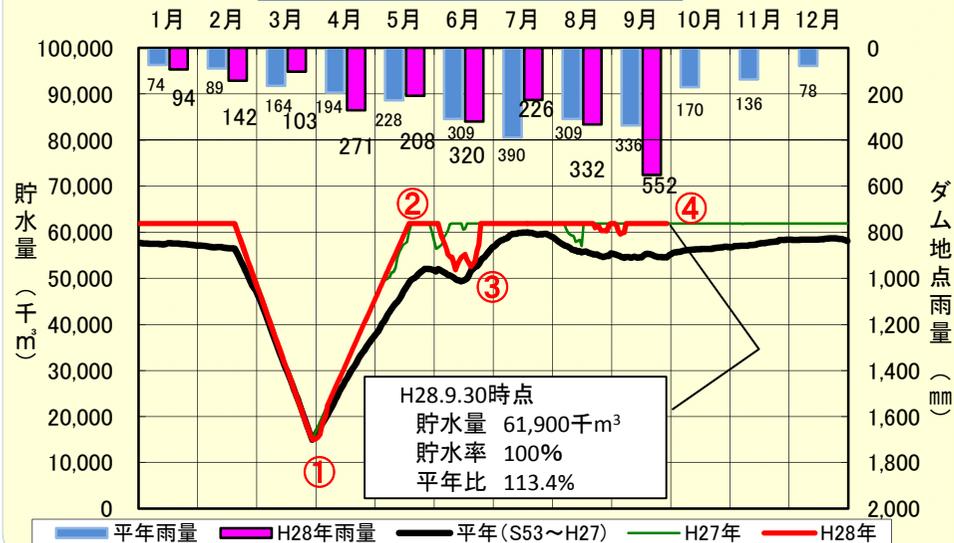


※平年は管理開始～H27までの各年同日の平均値。

### ■牧尾ダムの9月までの水源状況

- ① 暖冬による少雪及び3月の少雨(平年比58%)により、3月末には貯水率3.2%まで低下しました。
- ② その後、4月降雨(平年比145%)、5月降雨(平年比95%)により、5月11日には貯水率92%(平年比122%)まで達しました。
- ③ 6月4日の梅雨入り後、6月降雨量は平年を下回り(78%)、水需要の多い時期に入ったこともあって、ダムからの利水補給を継続した結果、22日には貯水率は70%まで低下しました。
- ④ 7月上中旬の断続的な降雨で再び満水近くまで回復したものの、その後の少雨(7月降雨量は平年比53%)とダム補給の継続によって9月上旬には貯水率60%まで低下しました。
- ⑤ 9月中旬以降、秋雨前線及び台風16号接近に伴って平年を大きく上回る降雨があり、30日時点で貯水率89%(平年比131%)まで回復しています。

## 岩屋ダム

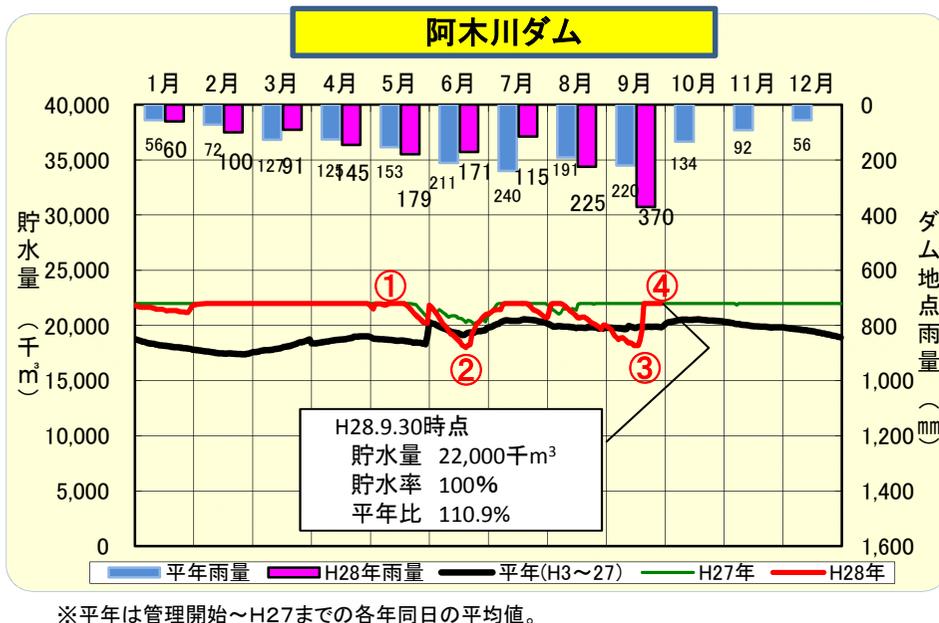
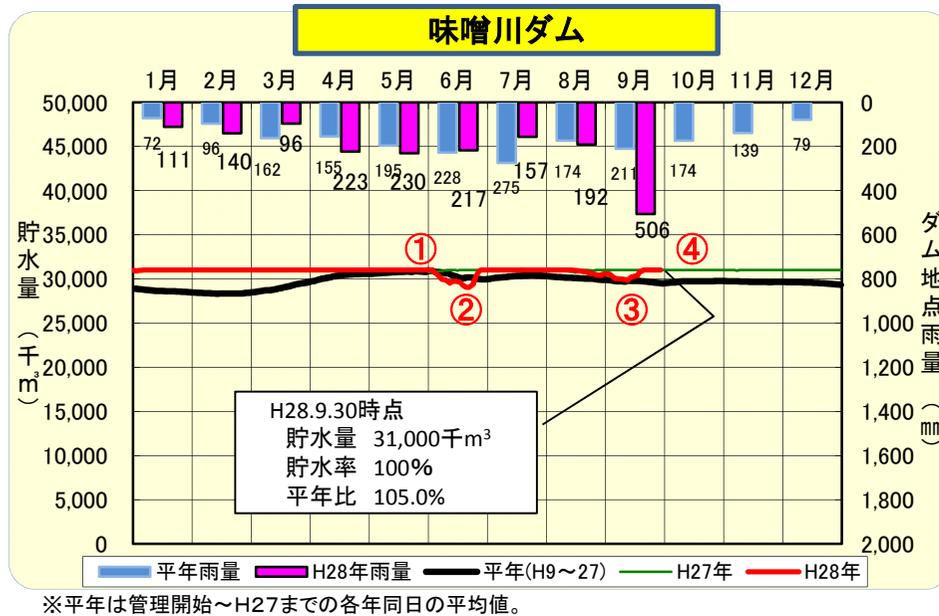


※平年は管理開始～H27までの各年同日の平均値。貯水量(率)は利水貯水量(率)。

### ■岩屋ダムの9月までの水源状況

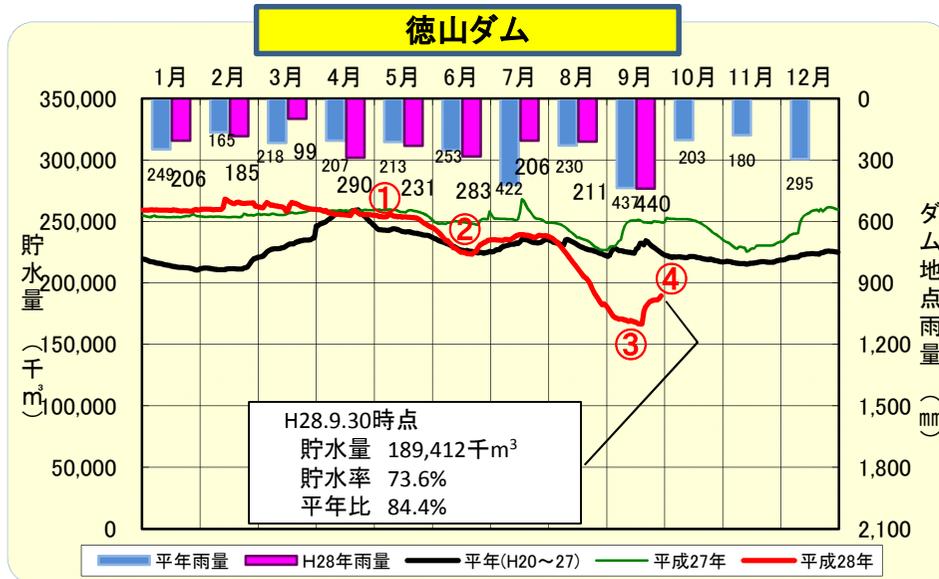
- ① 暖冬による少雪及び3月の少雨(平年比63%)の状況下で、発電運用計画に基づき3月31日には15,000m<sup>3</sup>・利水貯水率24%まで低下しました。
- ② その後、4月降雨(平年比140%)、5月降雨(平年比91%)により、5月20日には利水貯水率100%(平年比125%)まで達しました。
- ③ 6月4日頃の梅雨入り以降、雨量は平年並みでしたが、農業の需要期であったことと、中旬に河川流況が悪化したことに伴ってダムから日量約70～150万m<sup>3</sup>の利水補給を行ったため、6月13日には利水貯水率が84%まで低下しました。
- ④ その後は降雨に恵まれ、河川流況は安定した状況が続き、利水貯水率もほぼ満水で推移し、30日時点でも満水(平年比113%)となっています。

# 木曾川水系の水源状況(H28年9月30日まで)③



- 味噌川ダム、阿木川ダムの9月までの水源状況
- ① 牧尾ダムと同様、4月及び5月の平年を上回る降雨により、5月中旬頃までは満水近くで推移しました。
  - ② 6月に梅雨入りしたものの少雨傾向が続き、ダムからの利水補給を行った結果、6月20日頃の貯水率は平年よりも低い水準となりました。(最低貯水率:味噌川94%、阿木川82%)
  - ③ 6月下旬から断続的な降雨が続き、満水近くまで回復しましたが、8月下旬から再び少雨傾向となり、利水補給を行った結果、9月中旬の貯水率は味噌川96%、阿木川83%まで低下しました。
  - ④ その後、秋雨前線及び台風16号接近に伴って平年を大きく上回る降雨があり、30日時点では両ダムとも満水となっています。

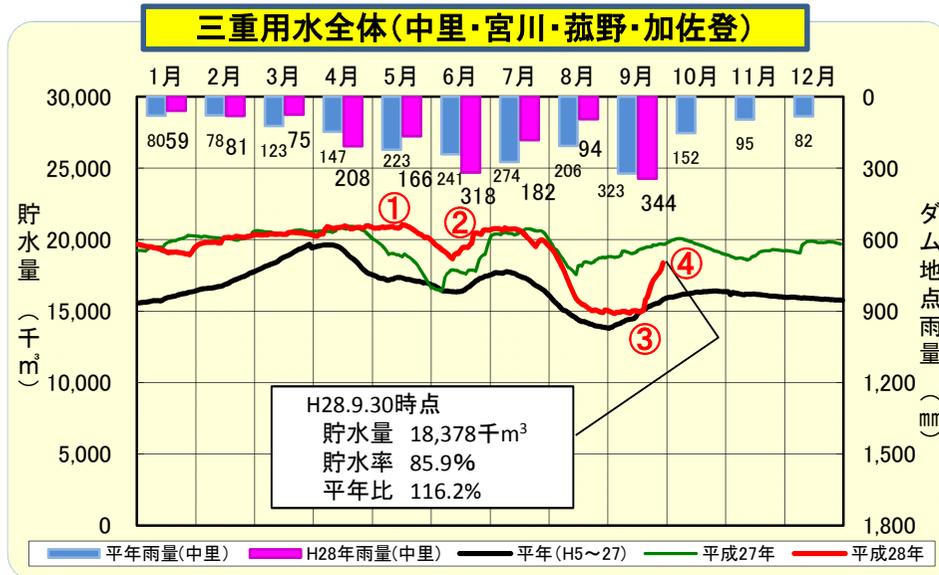
# 木曽川水系の水源状況(H28年9月30日まで)④



※平年は管理開始～H27までの各年同日の平均値。貯水量(率)は有効貯水量(率)。

## ■徳山ダムの9月までの水源状況

- ① 暖冬によって少雪傾向ではあったものの、4月、5月は適度な降雨に恵まれ、貯水率は平年を上回る水準で推移しました。
- ② 5月中旬からの小雨傾向により揖斐川流域の河川流況が悪化したため、6月3日～19日のうち14日間、徳山ダムからの補給(増量放流)を実施し、河川環境の維持・保全を図りました。
- ③ 7月上中旬の断続的な降雨で流況は改善したものの、その後の少雨傾向によって再び河川流況が悪化し、8月2日～9月16日のうち37日間、徳山ダムからの補給(増量放流)を実施しました。この結果、貯水率は9月19日には65%(平年比72%)まで低下しました。
- ④ 9月中旬以降、秋雨前線及び台風16号接近に伴う降雨により、30日時点で貯水率74%(平年比84%)まで回復しています。



※平年は管理開始～H27までの各年同日の平均値。

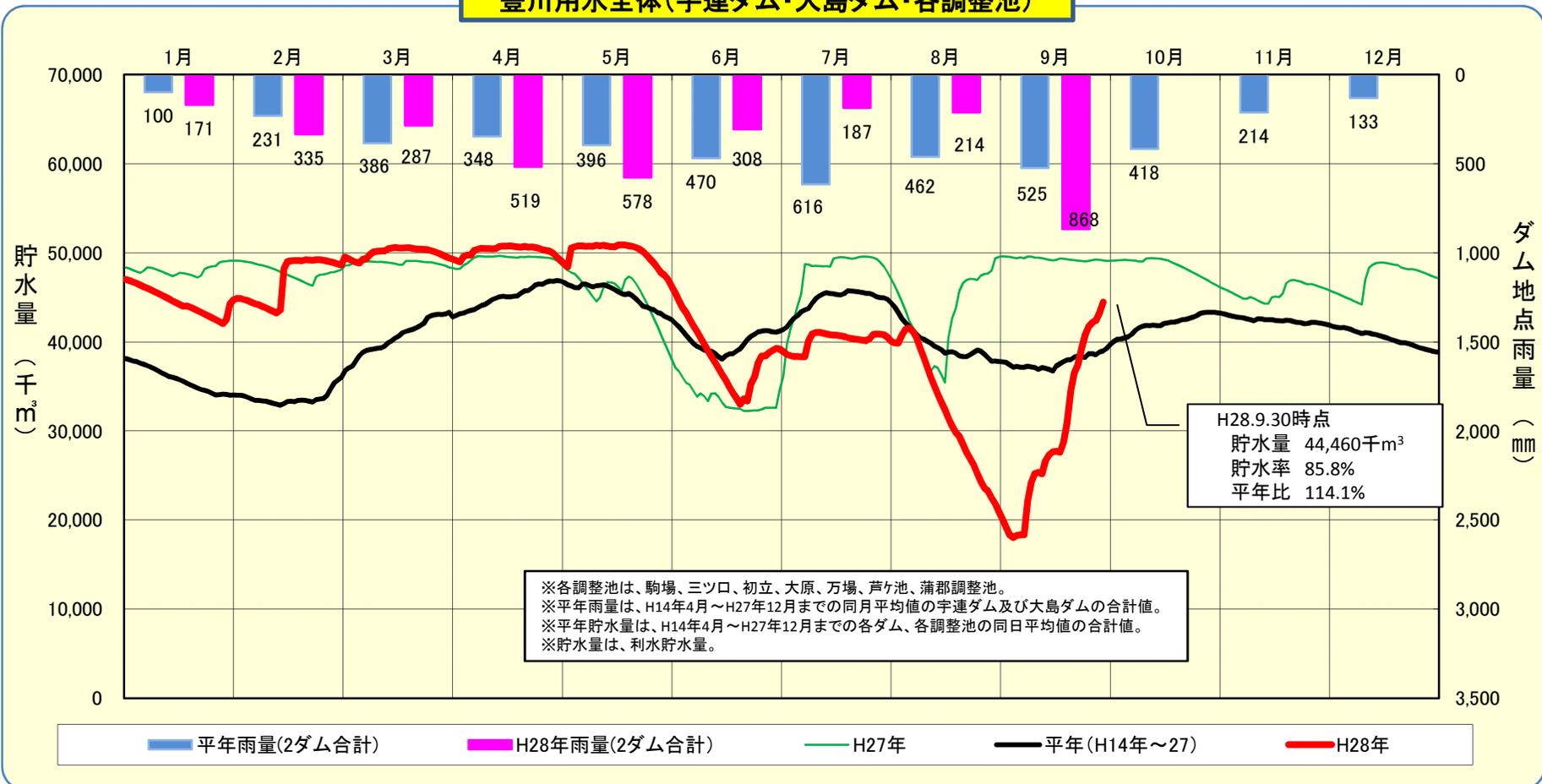
## ■三重用水の9月までの水源状況

- ① 3月は少雨(平年比61%)だったものの、前年から平年を上回る高い貯水率を維持していたこと、4月降雨(平年比141%)、5月降雨(平年比74%)により、5月18日には貯水率98%(平年比121%)まで達しました。
- ② 6月に梅雨入りしたものの少雨傾向が続き、各調整池から補給を行った結果、貯水率は87%まで低下しましたが、その後の降雨で7月9日には97%まで回復しました。
- ③ 8月の降雨量は平年比45%と少なく、各調整池の補給を行ったことで貯水量は大きく低下(9月12日時点で69%)しましたが、それまで高い貯水量を維持していたこともあって、ほぼ平年を上回る貯水量で推移しました。
- ④ 9月中旬以降、秋雨前線及び台風16号接近に伴って平年並の降雨があり、30日時点で貯水率86%(平年比116%)まで回復しています。

# 豊川水系の水源地状況(H28年9月30日まで)①

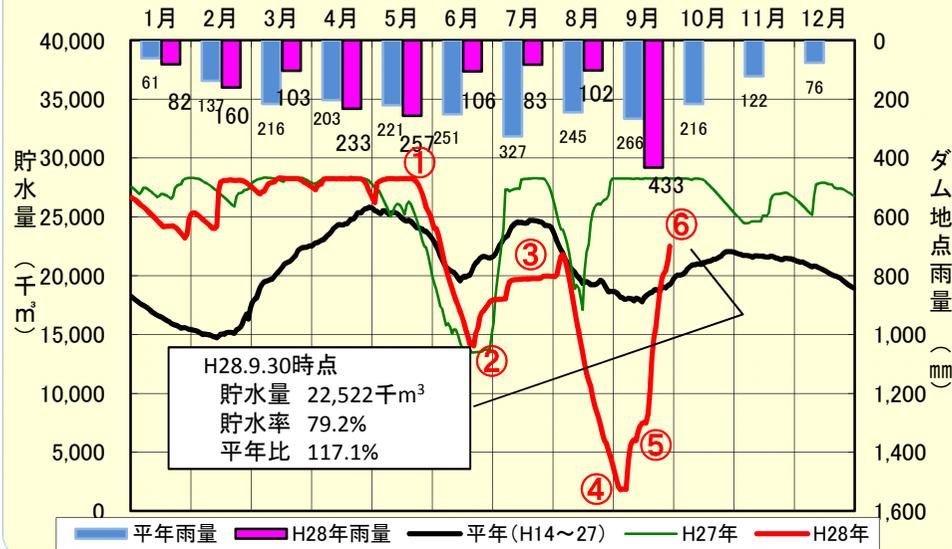
- 豊川水系では、6月～8月の水源地での降雨量が管理開始以降最低を記録するなど厳しい流況が続きました。これに対し、6月、8月は主に宇連・大島ダム及び各調整池からの利水補給、7月には天竜川からの佐久間導水による補給、さらに寒狭川からの導水など、水源を最大限活用しました。このため、9月4日には豊川用水全体の水源の合計貯水率は35%(平年比49%)まで低下しました。
- 9月上旬の降雨で貯水率はやや回復しましたが、依然として平年を大きく下回る貯水量であることと、今後の水運用を見据えて、9月15日より自主的な節水を開始しました。
- その後、秋雨前線及び台風16号接近に伴って平年を大きく上回る降雨があったため、21日には自主的な節水を終了しました。豊川用水全体の水源の合計貯水率は、9月30日時点で86%(平年比114%)となっています。

豊川用水全体(宇連ダム・大島ダム・各調整池)



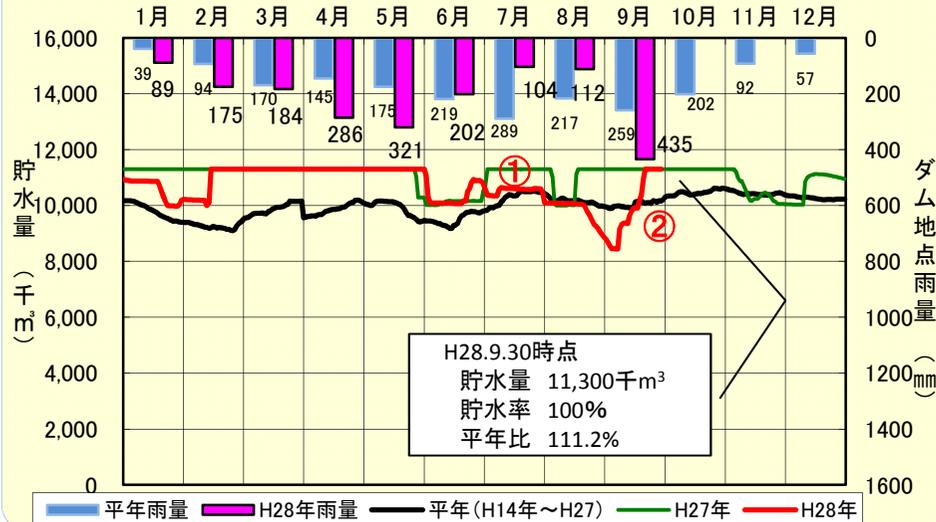
# 豊川水系の水源地状況(H28年9月30日まで)②

## 宇連ダム



※ 平年はH14年4月～H27年12月までの各年同日の平均値。

## 大島ダム



※ 平年はH14年4月～H27年12月までの各年同日の平均値。

### ■ 宇連ダムの9月までの水源状況

- ① 宇連ダムでは、3月は少雨(平年比55%)であったものの、平年をやや上回る4月、5月の降雨により、5月20日頃までは概ね100%近い貯水率(平年比約130%)で推移しました。
- ② 6月4日頃の梅雨入り後は降雨が少ない状態が続き、宇連ダム地点の6月累計雨量は106mm(平年比37%)、7月累計雨量83mm(平年比25%)と2ヶ月続けて極端な少雨となりました。水需要期に入って日量約50万m<sup>3</sup>程度の補給を継続したことから、6月22日には貯水率49%まで低下しました。
- ③ 7月1日からは佐久間導水による全量取水を実施し、豊川水系の水源地を温存できたため、7月中は貯水率はほぼ横ばいで推移しました。
- ④ 8月に入ってから降雨で貯水量はやや回復しましたが、5日から18日までの間はまとまった降雨がなく、ダムからの利水補給を継続したため貯水率の低下が続き、9月4日には貯水率は6.3%(平年比10%)まで低下しました。
- ⑤ その後約100mm程度の降雨があり、ダム流入水の増加や河川流量の改善により貯水率はやや回復しましたが、依然として平年を大きく下回る貯水量であることと、今後の水運用を見据えて9月15日より自主的な節水を開始しました。
- ⑥ その後、秋雨前線及び台風16号接近に伴って平年を大きく上回る降雨があったため、21日には自主的な節水を終了し、30日時点で貯水率79%(平年比117%)まで回復しています。

### ■ 大島ダムの9月までの水源状況

- ① 大島ダムは、宇連ダムより集水域(降雨が貯水池に流入する区域)が狭く、宇連ダムのように天竜川水系からの流域外導水を貯水できないことから、宇連ダムを優先利用し、宇連ダムの貯水量が減少に合わせて大島ダムを利用しています。
- ② 7月までは平年を上回る貯水量がありましたが、8月に入り宇連ダム貯水量の減少に伴って利水補給を行い、9月4日には貯水率75%(平年比85%)まで低下しました。その後、秋雨前線等に伴う降雨により、現在は満水となっています。